

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果から読み取れる、 児童生徒や学校の状況

調査人数 小学6年生 963名、中学3年生 1,009名

### (1) 教科に関する調査結果

正答率一覧(単位%) (「正答率」は、満点を100点としたときの「点数」と同じです。)

校種	教科	年度	全国平均	県平均	県平均 仙台市除く	石巻市 平均	全国と 市の差	仙台市を除いた 県との差
小学校	国語	R4	66	64	62	62	-4	0
		R3	65	63	62	60	-5	-2
	算数	R4	63	60	58	57	-6	-1
		R3	70	68	66	64	-6	-2
	理科	R4	63	61	60	59	-4	-1
		H30	60	59	57	55	-5	-2
中学校	国語	R4	69	69	68	66	-3	-2
		R3	65	65	63	63	-2	0
	数学	R4	51	49	45	44	-7	-1
		R3	57	55	52	50	-7	-2
	理科	R4	49	50	47	45	-4	-2
		H30	66	67	64	62	-4	-2

注1) 全国、県共に公立学校の平均です。

注2) 県平均、石巻市平均は、整数値で示されており、全国平均の数値は、小数第1位を四捨五入したものです。

### (2) 教科に関する調査結果から

- ・小学校国語が宮城県平均と同等であることを除いては、小・中学校とも宮城県及び全国の平均を下回る結果だった。
- ・小学校算数・中学校数学の乖離が令和3年度同様大きいという課題はあるが、宮城県との乖離が減少している傾向がある。
- ・観点別・領域別に見ると、国語では小学校・中学校共に「知識及び技能」の観点について評価が高い。算数・数学では、「思考・判断・表現」や「記述式」において、小学校段階で既に乖離が大きく、中学校でも改善が見られないことから、小学校低学年からのつまずき解消の必要性を感じる。また、理科に関しても課題がある観点や領域が多く、中学校では特に記述式の乖離が大きいことから、身に付けた知識を使って、考えたことを表現する記述の指導が理科でも必要であると考える。
- ・算数・数学、小学校理科において、全国平均から10ポイント以上乖離がある問題があった。

<全国平均を10ポイント以上下回った問題>

小学校算数

示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す。

※正三角形の意味や性質をもとに、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する力が問われている。

つくったプログラム

- ① 5 cm の直線を引く。
- ↓
- ② 左に 60° 回転する。
- ↓
- ③ 5 cm の直線を引く。
- ↓
- ④ 左に 60° 回転する。
- ↓
- ⑤ 5 cm の直線を引く。

はなこ

5 cm の直線を引く。  
左に 60° 回転する。  
2種類の命令のうち、  
どちらかの命令を直すと  
かこうとした正三角形が  
できますね。

かこうとした正三角形をかくには、どちらの命令を直すとよいですか。  
下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。また、その選んだ命令を、言葉と数を使って、正しい命令に書き直しましょう。

ア 5 cm の直線を引く。  
イ 左に 60° 回転する。

中学校数学

2つの偶数の和がどのような場合に4の倍数になるか説明を完成する。

※目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する力が問われている。

予想2

差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。

2+6と6+2は同じとみていいから、  
(小さい方の偶数)+(大きい方の偶数)  
について説明すればいいね。

上の予想2がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

説明2

nを整数とすると、差が4である2つの偶数のうち、  
小さい方の偶数は2n、大きい方の偶数は2n+4と表される。  
それらの和は、

2n + (2n + 4)  
=

(2) 学校質問紙調査から

○：成果 △：課題

①学習意欲の向上について

- 小・中学校ともに一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど、積極的に評価している。
- 各学校において将来就きたい職業や夢に関する指導を行っている。

②授業改善について

- 近隣の小・中学校と授業研究行うなど合同で研修を行っている。
- △学級やグループでの話し合いなどの活動は取り入れているが、児童生徒が自分の考えを深めたり広げたりすることまでには至っていない。

③基本的生活習慣の確立について

- 小・中学校ともに、家庭学習の方法について具体例を挙げながら指導している。
- △児童生徒一人一人に配備されたタブレット端末の家庭利用率は、発達段階等によって差が見られる。

(3) 児童生徒質問紙調査から

○：成果 △：課題

①学習意欲の向上について

- 「将来の目標や夢をもっている」と肯定的に回答している割合は、小・中学生ともに全国値を上回った。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と思っている割合は小・中学生とも90%を超えており、全国値を上回った。
- △「自分にはよいところがある」と思っている割合は、小・中学生ともに全国値を下回った。

②授業改善について

- 学習の中で、PCやタブレットなどのICT機器を使うのは、勉強の役に立つと感じている小中学生が95%を超えている。
- △「授業の内容はよく分かる」について、小・中学校ともに国語においては全国値を上回るが、算数・数学においては小学校で全国値を下回る。

③基本的生活習慣の確立について

- △「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている」と回答した割合は、小・中学生ともに、ほぼ全国平均並みである。
- △「家で計画を立てて学習している」と回答した割合は、小・中学生ともに高い値となったが、「平日に1日当たり小学生で1時間以上、中学生で2時間以上勉強している」学習時間において中学生は全国値を下回っている。
- △「平日に1日当たり2時間以上テレビゲームをしている」と回答した割合は小・中学生ともに全国値を超えている。
- △「平日に10分以上読書をする」と回答した割合は特に小学生はわずかながら全国値を超えているが、中学生は全国値を下回っている。

## 令和4年度全国学力・学習状況調査結果・分析に基づき、「石巻市の学力向上」を展開する中で、下記の取組を推進する。

石巻市教育委員会では、石巻市学力向上プランを策定し、学校・家庭・地域が一体となって学力向上対策に力を入れている。

今後も、学力向上推進委員及び市内全小・中学校の教職員や保護者と課題意識の共有を図りながら、学力向上に向けた教育活動の改善と充実を目指していくとともに、以下の点について力を入れていく。

### (1) 学習意欲の向上

児童生徒の学習状況に関する調査結果から、学習に関する意欲はあるものの、家庭での学習習慣の定着や、学習の成果には結びついていない。教師による支援に関しても全国平均を上回っているが、一方で自己肯定感が低い。学習意欲が結果や望ましい生活習慣に結び付くよう、

- ①学校全体で行う全国学力・学習状況調査の結果分析
  - ②結果分析に基づくPDC Aサイクルの児童生徒・保護者との共有
  - ③弱点克服や全体の底上げに向けたタブレットドリルの活用
- の3点を推進する。

### (2) 授業力の向上

I C T機器の活用は進んでいるが、「授業はよく分かる」と答えている児童生徒の割合と、全国学力・学習状況調査の結果が結び付いていない。協同学習を効果的に進めるための、人間関係づくり等の学びの土台づくりに関する取組を継続していくとともに、全国学力・学習状況調査の問題分析や結果分析をもとにした授業改善に学校全体で取り組む。また学力向上重点支援事業地区や教科等指導員の取組を他の学校へ水平展開していくとともに、指導力向上研修等を開催し、各校の実態に応じた学習指導の改善を進める。

### (3) 基本的な生活習慣の確立

昨年度同様、家庭でのコンピューターゲーム（携帯のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）を1日2時間以上している児童生徒の数が全国平均を上回り、家庭学習の時間と読書の時間に関しては、中学校で全国平均を下回った。保護者面談による、学力に関する情報共有だけでなく、生活習慣に関しても家庭との連携を図る。また、各小・中学校の取組の中で、読書の推進や家庭連携に関する好事例を他の学校へ水平展開し、まずは中学校区ごとに小中連携で基本的な生活習慣の確立を進めていく。